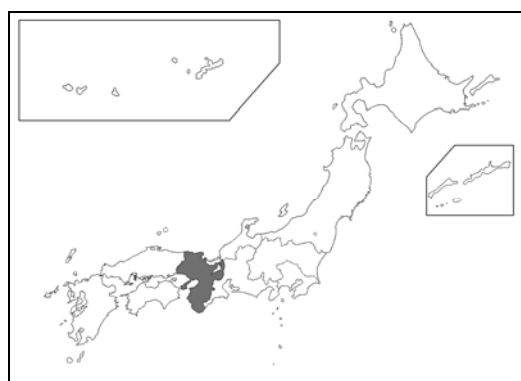


(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)

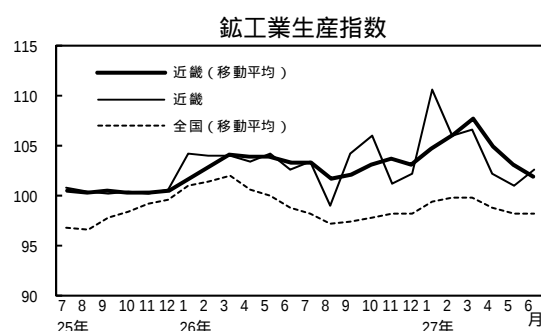
前回調査からの主要変更点

	前回(平成27年5月)	今回(平成27年8月)	
鉱工業生産	持ち直しの動き	おおむね横ばい	↓
住宅建設	減少	おおむね横ばい	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

4～6月期は、はん用・生産用・業務用機械は、ガスタービン等で前期にまとまった出荷があったことにより減少となった。化学は、化粧品等が減少したことにより減少した。電気機械は、車載用のリチウムイオン蓄電池等が減少したことにより減少。輸送機械は、乗用車や自動車部品等が減少したことにより減少。食料品・たばこは、飲料等が減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
はん用・生産用・業務用機械	17.4	14.4	▲14.2	▲20.5	▲4.4	10.9
化学	16.8	5.6	▲4.2	0.8	1.3	4.4
電気機械	9.0	7.7	▲13.1	▲15.3	10.4	▲0.4
輸送機械	8.4	2.4	▲2.6	4.4	▲7.5	0.1
食料品・たばこ	6.7	▲1.0	▲1.3	▲1.9	0.5	5.5
鉱工業	100.0	4.4	▲5.3	▲4.1	▲1.2	1.7

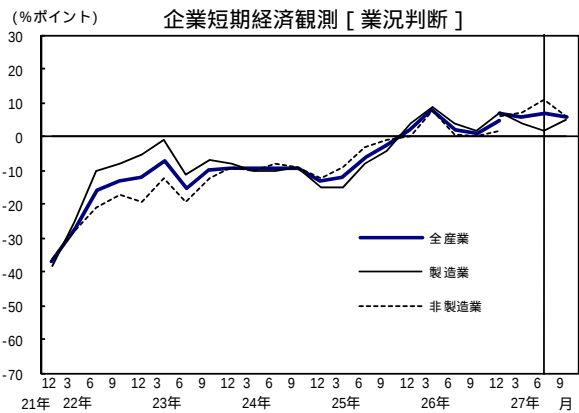
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

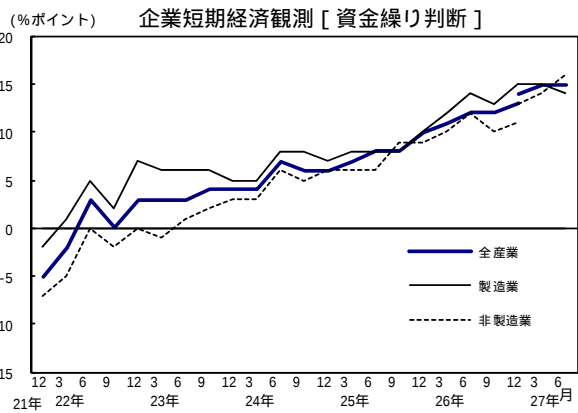
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

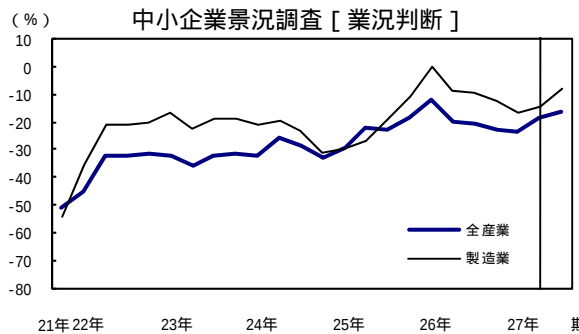
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



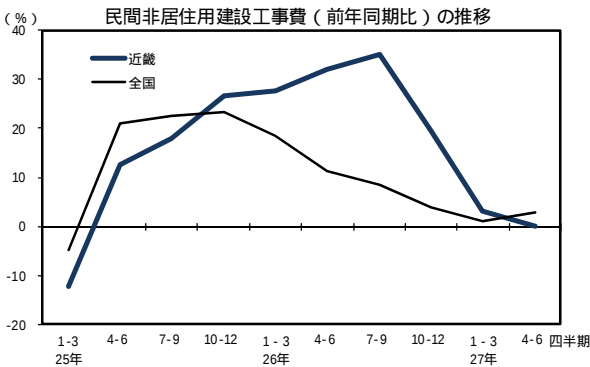
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7 月) [企業動向関連 (現状)]
「小売業の店頭販売を中心に手伝っていると、来客数や単価の悪化が実感される (経営コンサルタント) 」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事はおおむね横ばいとなっている。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (6 月調査)]

(前年度比、 %)		
	26年度実績	27年度見通
全産業	7.5 (▲ 6.1)	2.9 (2.8)
製造業	2.8 (▲ 3.8)	20.1 (12.1)
非製造業	10.3 (▲ 7.3)	▲ 6.9 (▲ 3.0)

(備考)() は前回 (3 月) 調査比修正率。

(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比1.8%減、5月は同0.9%増、6月は同1.5%減となった。

大型小売店販売額

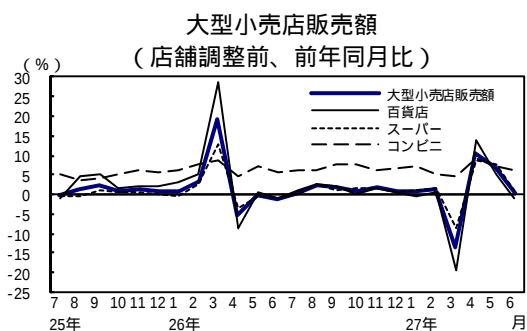
百貨店について、4月は昨年の消費税増税の影響による減少に対する反動により全ての品目で前年を上回り、また、訪日外国人観光客に対する販売や、株高による資産効果で外商販売も好調だった。5月は、4月に引き続き消費税増税の影響に対する反動による増加や、大型連休の配置がよかったこと、また、気温が上昇したこともあり夏物の「身の回り品」が好調であったため増加した。6月は、各百貨店がクリアランスセールを7月へ後ろ倒ししたことにより買い控えが起きたことや、梅雨入り・天候不順があり前年比で減少した。

スーパーでも、昨年の消費税増税の影響による減少に対する反動増があったことに加えて、訪日外国人観光客による「その他の商品」の購入もあり4 - 6月期は増加となった。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

近畿地域の家計動向関連DIは、51.2となり前月より2.4ポイント低下した。

「エアコン、冷蔵庫などの夏物家電の動きが悪く、故障しない限り、買い換えない傾向が強まっている (家電量販店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

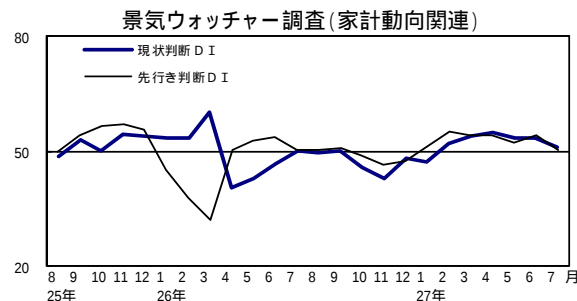
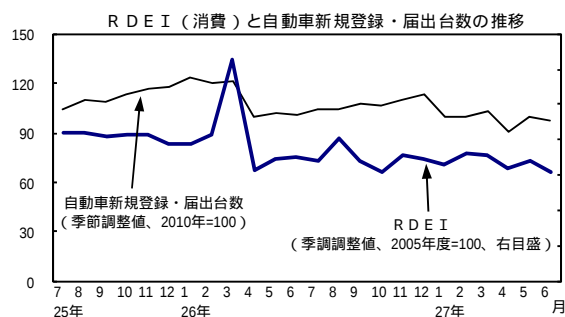


	27年4-6月	27年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	▲1.3	▲1.8	0.9	▲1.5
大型小売店(*2)	5.8	10.6	6.9	0.4
百貨店(*2)	5.9	14.1	5.4	▲0.8
スーパー(*2)	5.8	8.5	7.9	1.2
コンビニ(*2)	7.5	9.3	7.3	6.0
乗用車(*3)	▲4.6	▲7.4	▲4.8	▲2.3
(季節調整値)(*3)	▲4.9	▲11.8	10.0	▲3.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

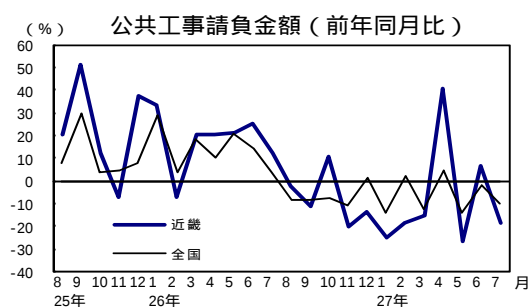
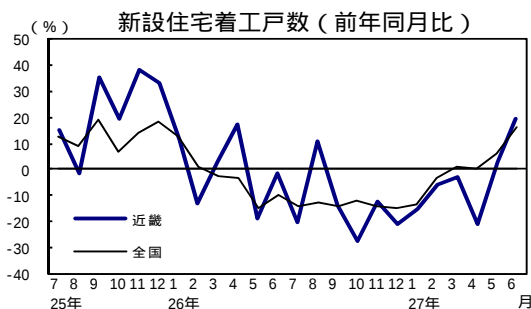
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

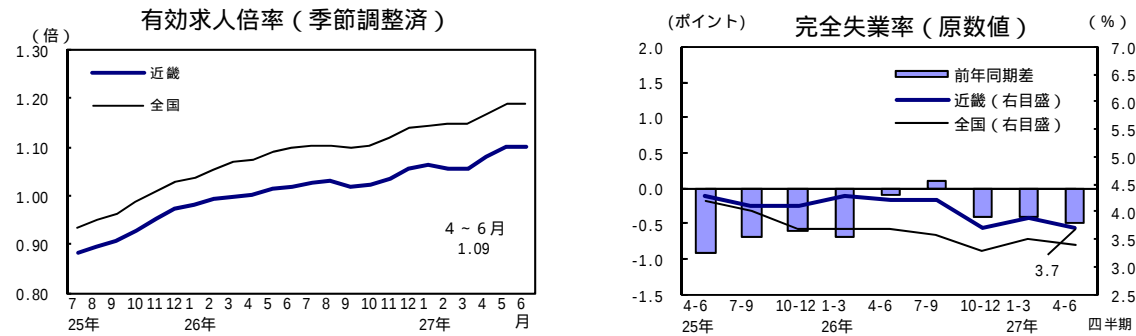
貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が上回ったことから、全体でおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は27年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

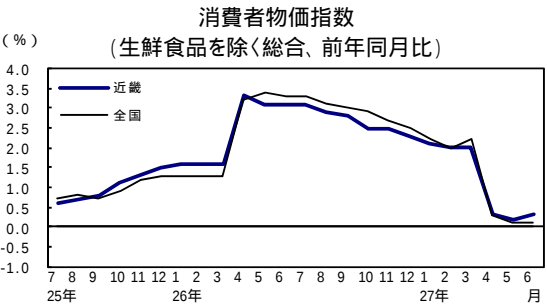


景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]
「紹介予定派遣の利用や、派遣後に直接雇用を行う企業が増えてきている。また、失業率が下がり、有効求人倍率が上がってきている（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額とも減少している。
- (3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年7-9月	10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
倒産件数 (前年比)	624 ▲ 3.9	584 ▲ 10.3	558 ▲ 8.8	591 ▲ 11.8	203 ▲ 6.9
負債総額 (前年比)	845 ▲ 36.1	714 ▲ 21.1	842 29.1	661 ▲ 36.2	219 ▲ 8.2



○ 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

- <現状>
- ・製造業では設備投資に対する意欲が高まりつつあるが、社会情勢の不透明感もあって慎重な姿勢であり、引き合いから注文までに時間がかかる（電気機械器具製造業）。
- <先行き>
- ・原材料価格の高騰が企業の経営を圧迫している。小売業では価格を据え置き、容量変更などで対応できても、レストランではそれができない。販売価格に反映せざるを得ず、安全や安心を担保するためには材料変更もできない。そのために、外食でも高付加価値戦略を実施している企業は、来客数で苦戦している（一般レストラン）。

